

炭電 ふく代 議員 公明党



問 不育症患者支援の推進を

答 市として認識と調査研究

問 妊娠しても流産などを繰り返す不育症への認識は。

答 健康推進課長 国はもとより地方自治体としても取り組む課題である。

問 不育症と診断された方の人数把握は。

答 把握していない。

問 相談窓口と周知啓発の現状は。

答 愛知県不妊・不育専門

相談センターを紹介している。市ホームページに関連ページを作成して、周知していく。

問 不育症患者に対する治療費助成制度の導入への考えは。

答 将来的に取り組むべき事業として調査研究していく。

問 昨年実施の集団検診における「胃がんリスク検診」の受診者数は。

答 健康推進課長 保健センターと十四山総合福祉センターで実施。受診者は、男性54人、女性105人、合計159人。

問 中学生へのピロリ菌検査導入への考えは。

答 現時点では、中学生への検査導入は考えていないが、今後は、先進地の状況

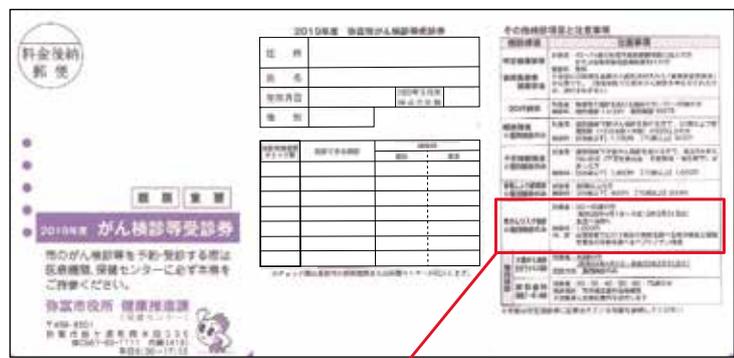
を研究しつつ方向性を探していきたい。

問 一方20歳からの胃がんリスク検診を推進する。

答 学校教育課長 市内小中学校で保健学習や学級活動、道徳を中心に指導を進めている。

問 ピロリ菌検査で胃がん対策を

答 来年度は個別通知で受診者増加



胃がんリスク検診 ※集団検診のみ

対象者：20～65歳の方
（昭和29年4月1日～平成12年3月31日生）
生涯1回限り
検診料：1,000円
内 容：血液検査でピロリ感染の有無を調べる抗体検査と萎縮性胃炎の有無を調べるペプシノゲン検査

▲2019年度より市がん検診等受診券にも項目を追加



問 昨年実施の集団検診における「胃がんリスク検診」の受診者数は。

答 健康推進課長 保健センターと十四山総合福祉センターで実施。受診者は、男性54人、女性105人、合計159人。

問 中学生へのピロリ菌検査導入への考えは。

答 現時点では、中学生への検査導入は考えていないが、今後は、先進地の状況を研究しつつ方向性を探していきたい。

問 一方20歳からの胃がんリスク検診を推進する。

答 学校教育課長 市内小中学校で保健学習や学級活動、道徳を中心に指導を進めている。